工業高校における『魔法の英語』を使った授業の実践報告とその分析

研究員　中西　毅
NAKANISHI Takeshi

1　はじめに
2　授業展開の説明
3　生徒たちの声と分析
4　私がこの実践から学んだこと
5　終わりに

1　はじめに

昨年度の授業実践を『2017年度工業高校における寺島メソッド基礎３教材を使った2年生の授業を振りかえって』という論文の形で報告させていただいたとき，寺島先生から「もっとこうしたほうがいい」「こう考えた方がいい」という貴重なアドバイスをいくつかいただきました．その中で，基本3教材をやった後は，『魔法の英語』を使って，英文法の幹である「後置修飾」と「センマルセン」の定着と，「準動詞」「ネクサス」「テンス、アスペクト、ボイス、モダリティ」などを身につけさせる方向で行こうと決意しました．

今，僕が担当しているのは，2年生は，今年から新しく担当することになった化学技術科と創造技術科の2クラス，3年生は昨年度から引き続き担当する化学技術科と創造技術科と土木科の3クラスと，今年から新しく担当することになった機械科2クラスと産業デザイン科1クラスの併せて6クラス，合計8クラスです．その8クラスの生徒全員に『魔法の英語』を買ってもらうことにしました．（和歌山工業高校は1学年10クラスあります．そのすべてのクラス全員に購入してもらった訳ではありません．その中で，僕が担当しているクラスの生徒全員に購入してもらいました．僕以外の先生が担当しているクラスでは，教科書を使ったオーソドックスな授業が行われています．もっと同僚と話をして，寺島メソッドを広めていければいいのですが，うちの学校の英語科では48歳の僕が最年少ということもあり，なかなか難しいです．同僚問題については，後述します）．

ただ，今年から担当したクラスは，まだ，基本3教材が終わっていません．ですので，以下の予定で『魔法の英語』を使用する計画を立てています．

	1 学期前半	1学期後半	2 学期前半	2 学期後半
第1グループ 化学技術科2年 創造技術科2年	The Hole 教科書和訳マラソン	The House	The Turnip	『魔法の英語』
第2グループ 土木科3年 化学技術科3年 創造技術科3年	ノミのピコ 教科書和訳マラソン	『魔法の英語』	The Great Dictator Last Speech	未定
第3グループ 機械科3年 （2クラス） 産業デザイン科	The Hole 教科書和訳マラソン	The House	『魔法の英語』 音声教材 We Will Rock You	未定

第 1 グループは，今年から担当することになった 2 年生 2 クラスですので，基本 3 教材でしっかり英語のリズムと後置修飾とセンマルセンを定着させてから『魔法の英語』でさらなる定着をはかっていくつもりです．第 2 グループは，昨年度にすでに基本 3 教材を学習済み（きちんと定着できている自信はないですが・・・）なので，1 学期の後半から『魔法の英語』を導入しました．第 3 グループは，基本 3 教材のうち The Turnip はやっていないのですが，3 年生ということもあり，2 学期後半以降は，映画や演説などを使った実践を使いたいので，2 学期前半から『魔法の英語』を導入することにしました．

1 学期後半，第 2 グループでは，授業の必修タスクは，毎学期やっている FLT とのトーク以外は，『魔法の英語』だけにしぼった形にしたのですが，反省が残りました（後で詳しく述べます）．ですので，2 学期後半に『魔法の英語』を行う第 3 グループについては，We Will Rock You のリズム読み，和訳プリント，暗記テストと並行する形に変えています．

この文章においては，1 学期後半に第 2 グループで行った『魔法の英語』を使った授業実践を，生徒の感想を元に振り返り，これ以降の授業改善をどう進めていくかを考察していきたいです．

2　授業展開の説明

第 2 グループの 1 学期後半の授業の進め方及び成績の付け方については以下のプリントの通りでした．

G3K3J3
1学期後半点数の付け方
魔法の英語、英語の語順、
就職面接トーク

1　必修タスク60点
　アレントーク1回
　魔法の英語3ページから20ページまで
2　期末テスト100点
　　聞き取り10点、振り返り作文20点、自由英作文20点
　　魔法の英語から50点
3　On my own（ボーナス）
魔法の英語延長戦
（全部で40ページ、1ページにつき1点、完走ボーナス20点、最高60点）
アレントーク延長戦（1回2点、5回まで）
　名曲さび暗記（1曲2点、5曲まで）
　何かを紹介する英文のビデオ（1作品4点、2作品まで）
　実力テスト範囲和訳（1ページにつき2点、最高16点）
　予想問題つくり（2枚まで）

1学期後半の成績の付け方
（1必修＋2期末テスト＋3　On my own ）÷2

1学期全体の成績の付け方
（中間テストまでの点数＋期末テストまでの点数）÷2

当初は，『魔法の英語』と「教科書和訳マラソン」の二本立てで行こうと考えていたのですが，寺島先生から「たくさんのタスクを与えすぎると生徒には何も残らない．ポイントは絞った方がいい」というアドバイスをいただいたので，今回は大胆に『魔法の英語』のみを必修タスクとしました．そして，『魔法の英語』を全ページやりきるのは，彼らにはすこしハードルが高いと考え，20 ページまでを必修とし，それ以上はボーナスタスクとして加点する方式にしました．授業スタイルについては，マラソン方式，つまり完全個別型学習でした．その後，寺島先生から，美紀子先生の意見として「工業高校の生徒に魔法の英語だけで実践すると生徒の動機面で難しいのでは？」というアドバイスをいただきました．しかし，そのときはもうすでに 1 学期後半の授業が始まってしまっていて，やり方を変えることは出来ませんでした．

後述しますが，実際やってみて，確かに『魔法の英語』だけだと，学校でなくても家で出来るので，授業中学習が進まない生徒が見られました．なかなか取りかかろうとしない生徒に業を煮やし「最低 1 日 2 ページは進まないと欠席にするよ」などと脅しをかけたり

もしたのですが，あまり効果はなかったです．

一つ重要なことを書き忘れていました．実は，創造技術科 3 年生だけ，綴じてあった解答をはがすのを忘れてそのまま『魔法の英語』を配布してしまったのです．解答を配布する是非は，またのちに考察したいと思います．

3　生徒たちの声と分析

3.1 期末テストに出題した「授業振り返り作文」

テスト作りに関しては，前回かなり厳しく寺島先生からご指導いただきこれまでとは大幅に出題方法を改善してみました．以下は，生徒向けに配布した「1 学期期末テストのお知らせ」です．

3年土木、創造、化学
英語期末テスト範囲

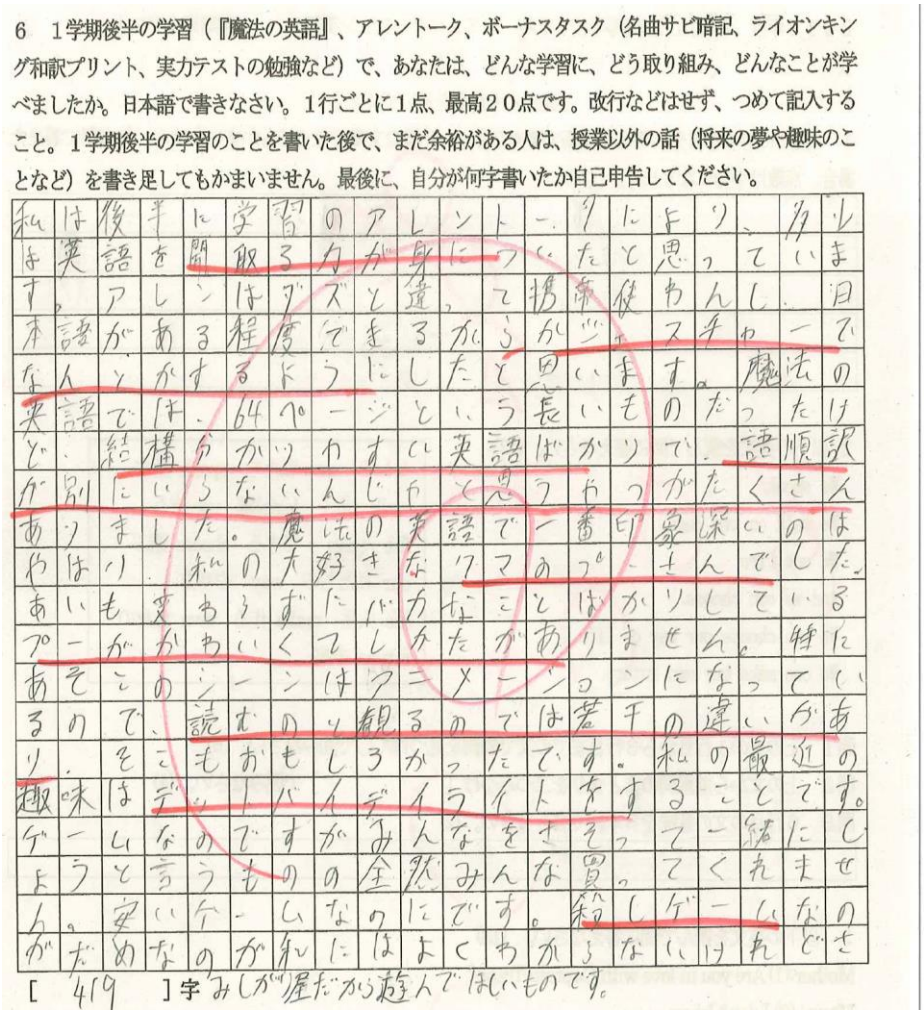
期末テスト100点満点
1　リスニング　（5問　10点）
アレントーク　"Job Interview"　の質問に対する自分の答えを英語でかく問題
2　日本語振り返り作文（20点満点）
20字超えるごとに1点。1学期後半の英語の授業で学んだ事、将来の夢、3年間の思い出などを書く。20字超えるごとに1点。
3　　英作文（20点満点）
自分が進みたい進路先に、自分のことを売り込む英文を書く。３０語以上。
4『魔法の英語』p3－20　から出題（50点）
単語のヒントはほぼつけます　英文から動詞や前置詞のまとまりをみつけて記号をつける問題、英文を穴埋め訳したり、立ち止まり訳したりする問題、本文の英文を深く読み取る問題など

期末テストまでの成績の付け方
（期末テストの点数×0.5＋必修タスク30点＋ボーナス点　）
1学期全体の成績の付け方
（中間テストまでの点数＋期末テストまでの点数）÷2

生徒の「授業振り返り作文」は，必修タスクの中に入れて，締め切り日までに各自仕上げて提出という形を取っていたのですが，今回はテスト問題の中に入れ込むことにしま

した．実際やってみて，よかったのは，生徒から提出された作文用紙の処理の大変さがなくなった点と，テスト時間に書くので生徒が集中して真剣に作文を書けた点があげられます．逆にマイナス点としては，この問題をテストに入れることで，じっくり考えてテストをとくタイプの生徒にとって，回答時間が短くなって困ったという点でした．実際何名かの生徒から「先生，時間足りやんかって全部の問題できやんかった！」という批判ももらいました．（寺島先生のご指摘の通り，振り返り作文は word など電子データの形で生徒から提出させることも，もちろんあきらめた訳ではありません．振り返り作文の提出方法をどうするかについては，もうすこし，生徒たちの様子をよく観察しながら慎重に決めていきたいと思います）．

寺島先生から「中西さんのテストは配点が細か過ぎる．もっと大胆にどーんと点数をあげた方が生徒のやる気は上がる」というアドバイスをいただいたので，自由英作文や，日本語による学習振り返り作文は，20 点満点という大胆な配点にしました．以下は実際のテスト問題とある生徒の回答です．


6　1学期後半の学習（『魔法の英語』、アレントーク、ボーナスタスク（名曲サビ暗記、ライオンキング和訳プリント、実力テストの勉強など）で、あなたは、どんな学習に、どう取り組み、どんなことが学べましたか。日本語で書きなさい。1行ごとに1点、最高２０点です。改行などはせず、つめて記入すること。1学期後半の学習のことを書いた後で、まだ余裕がある人は、授業以外の話（将来の夢や趣味のことなど）を書き足してもかまいません。最後に、自分が何字書いたか自己申告してください。

私は後半に学習のアレントークにより、多少は英語を聞取る力が身についたと思っています。アレンはずズと違って携帯使わんし、日本語がある程度でまるからジェスチャーでなんとかするドうにしたと思います。魔法の英語では、64ページという長いものだったけど、結構分かりやすい英語ばかりで、語順訳が別にいらないんじゃと思うやつがたくさんありました。魔法の英語で一番印象深いのはやはり、私の大好きなクマのプーさんでした。あいも変わらずたわいなことばかりしているプーがかわいくてしかたがありません。特にあそこのシーンはアニメーションになっているので、読むのと観るのでは若干の違いがあり、そこもおもしろかったです。私の最近の趣味はデュバイデイライトをすることです。ゲーしなのですがみんなをさそって一緒にしようと言うものの全然みんな買ってくれません。安いゲーしなのにです。結しゲーしなのがだめなのが私にはよくわからないけれどさみしが屋だから遊んでほしいものです。

[419]字

分からないときは，生徒に聞け！」とは，寺島先生がよくおっしゃることですが，最近本当にそう思います．授業がうまくいっていないときは，生徒にアンケートをしたり，

「振り返り作文」で気になる記述をしている生徒や，授業中なかなかやる気を出さない生徒をそのままにしないで，きちんと直接生徒の気持ちを聞く行為は，面倒くさいといえばそれまでですが，授業改善の一番の近道だと痛感しています．生徒からの声を受けて，実際今回の『魔法の英語』を使った授業実践を振り返っていきたいと思います．本節では，実際の生徒の作文と１学期終了後に生徒向けに行ったアンケート結果を提示し，実践の反省を行っていきたいと思います．

3.2　期末テストで出題した「振り返り作文」の紹介

「自分は魔法の英語の問題を通して，とても興味深く様々なことを学べました．なぜなら，魔法の英語に出てくる問題は実際にある話や，出来事が書かれた問題があったり，作り話もあったり様々な問題が詰め込まれていて大体３ページをやり終えるごとに話がかわるのでやりがいもありました」（G 科 FK くん）

「僕は魔法の英語で今まで分かりずらかった英文の組み合わせ方がたくさんこのワークで勉強できました．自分の力でワークを進めて自分のやりたいときにするので，とてもやりやすかったし，何より自分のペースでできたのでとてもわかりやすくできました」
（G 科 FK くん）

「プリントで授業をやるよりかは，ワークをやった方が，勉強がしやすかったので，これからもワークにして欲しいと思いました．プリントだと自分がどこまでやってて，あと何をやっていないのか等が分かりづらくごちゃごちゃになって訳が分からなくなってしますからです．ワークだと自分で持っておけるのでいつでも出来てわかりやすい」
（G 科 NK くん）

「この１学期後半で私はたくさんのことを学びました．魔法の英語ノートでは，英語が苦手な人でもわかりやすく取り組めました．英語の文はどこから読めばよいのだとか単語でも今後に使いそうな単語がでてきてだいたいは覚えられたしノートにかいてある通り本当に魔法の英語だと思いました」（K 科 KS くん）

「私はこの英語の授業の中で特に英語のスキルが上がったなと感じたのは，魔法の英語を用いての学習です．なぜ数ある中で，テキストの授業を選んだかというと，プリント学習では答えがないため，英語の本当の意味があっているか分からないし，アレンやダストークは対人なので，ネィティブな英語を学ぶことが出来ますが，どうしても正確な英語を学ぶ事が出来ているか不安になってしまいます．ですが，この魔法の英語では，私が「この文のニュアンスはどんなニュアンスなのだろう」と思ったときに，答えがついていたので，しっかりと理解することができました．さらに，ページをクリアしていくごとに点数も獲得できるので，まさにぴったりの授業だと思います．英語の単語の意味のニュアンスは場面によってかなり変化するのでまだまだ英語を理解し切れていないですが，少なくとも，この魔法の英語テキストをこなしていくことによって私の英語に対する理解は深まりまし

た」（J 科 NK くん）

「僕は 1 学期後半の学習で思ったのは，ただすればいいという雰囲気になっていてみんなとにかくページ，とにかくトークなどしっかり学習できているのかわからないなと思いました．魔法の英語は問題の近くに意味があり，そこからよみとり，答えを導く仕組みでとてもいい英語の本だなと思いました．本はとても長いけど，1 ページの問題がそこまで多くないので，しっかりと考え気持ちがとても楽でした」（J 科 MM くん）

「3 年生になって，英語の授業をやっていて感じたことは，2 年生までのやり方とは全く違いほぼすべてが魔法の英語というワークをすることになって，逆に怠ける人がより増えたことです．プリントをやる場合は，ほとんど学校でやる生徒が多くて少し怠ける人がいながらもやっていたのが多数でしたが，ワークになってからは，家で全部終わらせる生徒が多くて，いいことなのかもしれませんが，少し何かが違うような感じがしました．自分は家でやることはあまりないので，学校の暇な時に少しずつやっていました．一応毎日ほんの少しずつですが，やっていたので，多少なりとも覚えて，勉強になっていたのかなと思います」（J 科 YT くん）

「僕は今までの中西先生の英語の授業で英語の並び方などをわかっているつもりでしたが，魔法の英語をいざやってみるとなかなか今まで習ってきた問題と似ていましたが，その問題をとくのにすごく時間がかかってしまいました．自分ではわかっているつもりでしたが，きちっと理解できてなかったと自分でも気づくことができました．だから僕は魔法の英語という問題をやってよかったと思います」（G 科 IY くん）

「魔法の英語では単語の意味についてや文法がどのような流れであるかを注意して取り組みました．おかげで，だいぶ日本の文などとのちがいが分かってきた気がします．20 ページまでがノルマでしたが，30 ページ以上魔法の英語を進めたので，ボーナスを稼ぐことが出来たのでよかったです．」（G 科 OH くん）

「魔法の英語は読み物みたいなものがたくさんあったのでやっていくうちにだんだんとはまってしまい，知らぬ間に終わっていたのでやっている自分にびっくりしました．しかもひとつひとつの物語がまたとても面白くてとまりませんでした」（J 科 KK くん）

「プリントよりもワークの方がやりやすかった」という意見が多かったです．ただ，その逆で「いつでもできるから授業時間に学習する意味が薄れてきた」という感想も結構ありました．難しいものです・・・・

最後の G 科 OH くんや J 科 KK くんのような感想をもっと多くの生徒たちに持って欲しかったのですが，今回はいまひとつうまくいきませんでした．

3.3 授業後の生徒のアンケート調査の結果

1 学期終了後，授業を担当している 8 クラスのうち，4 クラスの生徒にアンケート調査を

行いました．以下は，その結果です．確認のために記しますが，4 クラスのうち，魔法の英語を使ったのは「創造技術科 3 年」と「化学技術科 3 年」の 2 クラスです．自由記述欄については，調査した 4 クラスすべてからの声です．なお化学技術科 3 年生の回答数が少ないのは，アンケート調査をテスト返却と並行しておこなったため，すべての生徒から用紙を回収できなかったためであることをことわっておきます．

3.2.1 成績の付け方について

この授業の成績の付け方についてどう思うか？

	機械科3年	化学技術科2年	創造技術科3年	化学科3年
とてもよい	41%	61%	52%	60%
よい	51%	39%	45%	30%
あまりよくない	8%	0%	3%	5%
よくない	0%	0%	0%	5%
	N=39	N=33	N=33	N=20

生徒の声

成績の付け方について

- 得意な人も真剣な人もいい点数がとれる
- ちゃんとやれば赤点はない
- 成績ががんばりに比例する
- テストがだめでも挽回できる
- 授業中眠くならない
- 点数がとれていても力はついていない
- テストの配分がもっと高い方がいい

成績の付け方については，ほとんどの生徒が納得しているようです．テストの点数だけではなく，提出物やパフォーマンスを点数に加えることに対して，多くの生徒は「こちらの方が公平だ」と思っている事がわかり，ほっとしています．しかし，「ほかの教科はテストが全てという状況にあるわけだから，いくら中西先生の授業だけこんなことしても，あまり意味がないのでは，成績のためだけにやりたくないタスクをするより，範囲が分かっていて，暗記だけしたら点数のとれるテスト重視の成績の付け方の方がいい」という声も，あまり僕の耳には直接届いては来ませんが，きっとあると思います．それと，「点数がとれていても力はついていない」という感想は，辛いです．もっと生徒が自分の成長を実感できるようなテスト作り，授業での声かけをしていかないといけないと痛感しました．

3.2.2　マラソン方式に関して

この授業は、一斉に授業するのではなく、個別学習で進めているが、どう思うか？

	機械科3年	化学技術科2年	創造技術科3年	化学科3年
とてもよい	41%	58%	33%	40%
よい	51%	39%	58%	35%
あまりよくない	8%	3%	6%	20%
よくない	0%	0%	3%	5%
	N=39	N=33	N=33	N=20

生徒の声

個別学習について

・自分のペースでできる
・質問しやすい
・みんなと協力できる
・考える時間が自分で決められる
・絶対に先生と（1対１で）話せる時間がある
・集中できる
・難しいタスクは全体でやった方がいい
・授業がうるさくなる
・たまにはみんなで授業したい
・家でもできる（ことを学校でやっている）
・自分が何をすればいいか分からなくなるときがある

一斉に授業をするよりも個別の方が，先生にも友達にも分からないところだけを聞けるので効率的でやりやすいというのは，よく聞く生徒の声です．ただ，創造技術 3 年や化学 3 年で若干「とてもよい」と答えている生徒の割合が低いのは，やはり，『魔法の英語』タスクオンリーだと，教室でみんな一斉に授業をする意義があまり感じられなかったからかと推測されます．

なお，最後の「自分が何をすればいいかがわからなくなるときがある」というのは，『魔法の英語』を使わなかったクラスの生徒からの感想です．プリントでのマラソンでの個別学習だとどうしてもそういう生徒は出てくるので，個別の声かけが必要です．「プリント

の説明をよむ目の力」が弱い生徒は，活動型授業の際に「他のクラスメートの動きを見て自分がすべきことを見つける目の力」も弱いといえます.

3.2.3　自分の英語力は上がっているか？

他の先生の授業と比べてこの授業で英語力は上がったか？

	機械科3年	化学技術科2年	創造技術科3年	化学科3年
そう思う	42%	42%	27%	35%
少しそう思う	42%	27%	67%	55%
あまりそうは思わない	16%	30%	6%	5%
全くそうは思わない	0%	0%	0%	5%
	N=39	N=33	N=33	N=20

英語力はついているか？
- 英単語の力はみについていない
- 外国の人と話す力は身についた
- 自分がやっているから力がついている
- 一斉にやっても内容が入ってこない
- したいときにした方が覚えやすい
- 個人でやるので力がついたかどうか分からない
- 文法などは全体でやった方が力がつくと思う
- （英語が）苦手なのは変わっていない

量的調査の結果を見ると，多くの生徒が「上がっている」と答えてくれていますが，「そう思う」と答えている生徒は，とくに創造技術科 3 年と化学技術科 3 年では低くなっています．中学校までの英語に対する苦手意識を払拭しきれていないのは，本当に悔しいです．その理由には，二つのことが考えられます．

一つは，生徒が「自分の英語力は上がっている」と実感できる機会を与えていないことです．その最大のチャンスは定期テストでしょう．生徒が成長を実感できる，「僕にも分かった！できた！」と思えるテストの作成と，そこに向かう教材やタスクの並べ方や与え

方をさらに改善していかなければなりません．テスト以外でも例えば，FLT の先生とのトークや，バイト先に来た外国人との会話，初見の英文など，自分の成長が確かめられる機会を意図的に与えていくことも大事だと思います．

二つ目は，各タームの学習がぶつ切りで，つながっていなくて，結局生徒の直線的な成長につながっていない点です．後述しますが，その鍵になるのは「本質の見極めとスパイラル的な学習」でしょう．

「赤点にならないようにタスクはやりきった．『魔法の英語』も全部やりきった．できた！」という達成感を「成長の自覚」や「自己に対する自信」や「疑問を創り出す力」につなげない限り，生徒は「学び続ける賢い市民」にはなれないでしょう．「できる」→「わかる」→「創る」の段階を考えること（『英語にとって授業とは何か』(p15)）を意識して生徒と向き合っていきたいと思います．

3.2.4　学習意欲はあがっているか？

他の先生の授業と比べてこの授業の進め方の方が勉強する意欲は上がったか？

	機械科3年	化学技術科2年	創造技術科3年	化学科3年
そう思う	56%	64%	56%	30%
少しそう思う	33%	21%	31%	45%
あまりそうは思わない	8%	15%	13%	15%
全くそうは思わない	3%	0%	0%	10%
	N=39	N=33	N=32	N=20

生徒の声

意欲は上がっているか？

・加点があるのでやる気がでる．

・他の授業は授業の形にこだわり過ぎていて受けにくいが、この授業は形にこだわっていないので受けやすい

・個別にやるので後回しにしてしまうときがある

・暗記が多い（ので意欲があがらない）

・やればやるほど点数があがる

・めんどくさい

・ボーナスのために頑張っているつもりがボーナスタスクに夢中になっていた

・テスト勉強をするにあたって心の余裕がある

・自分で追い込める

・やらなければならないという危機感がある

・しなければならないから追い立てられてやってるだけで残ってない

寺島先生がいつもおっしゃっておられるとおり，「動機つけがすべて」だと本当に最近思っています．高校生の「基礎学力の定着」が叫ばれ，「学びの基礎診断」というテストが導入されますが，「学びの基礎」は「基礎学力があること」よりも「学びたいという意欲があること」という大前提が忘れられている気がして仕方ありません．そういう意味でも，先述の「英語力は上がっているか？」に比べると，「意欲が上がっている」が，どのクラスもいい結果がでていることは，正直，嬉しいです．

自由記述の「ボーナスポイントを稼ぐつもりが，夢中になっていた」という意見が嬉しかったです．僕の授業の最終形態は，大学院のゼミのように「成績とか単位とか進路とか関係なく，ただやりたいから自分で勉強できるようになること」で，「生徒自身が勉強したいことをもっていて，それにむかって自分で計画をたてて学習を深めるスタイル」まで，持って行きたいと思っています．こう書いてくれた生徒は，その理想型に近付きつつあるのかなと嬉しく思いました．

ただ，手放しで手応えだけを感じていてはいけません．例えば，化学技術科 3 年生の「そう思う」と答えている生徒は少ないです．このクラスは，スマホアプリのゲームに生活を支配されている生徒が多く，授業中もなかなかそこから離れて学習の方に気持ちが向かない生徒が多いことがずっと課題です．他のクラスでも「英語や勉強はきらいだけど，赤点をとりたくないから仕方なくやっているだけ．めんどくさい」としかとらえられていない生徒も少なくないです．ただ，全員に「英語の勉強は楽しい！」と思ってもらって「すべてのタスクに全力で取り組む姿」を見たり，このようなアンケートで全ての生徒が「そう思う」と答えてもらえるような授業をしたいのは，教科担当として当然のことですが，あまり気負わず，少しずつ一人ずつをいい風に変えていければいいかなと，楽観的に前向きに進んでいきたいです．

3.2.5 この授業でどんな力がついたか？

この授業でついた力は？

- 外国人とフレンドリーに話す力
- 自分で単語を訳したり英文を少しでも書けるようになった。
- すべきことを早くしようという意思
- 英語と日本語の違い
- 英文を聞いて単語を理解する力や英語と日本語の単語の並べ方の違いなど
- 文の構成
- こつこつ頑張る事
- 自分で計画して物事を進める力
- 英文を楽に訳せるようになった
- しようと思った。今までは英語をあきらめていた
- 暗記力
- 文法を学べたので文章力が上がった

最後に，「この授業でどんな力がつきましたか？」という質問に対する自由記述を紹介します．はじめに断っておきますが，空白の回答（つまり，この授業でとくに何かの力が

ついたとは実感できていない生徒）も相当数ありました．それは，受け止めるしかないでしょう．

話は少しそれますが，ここで「語彙力」について少し触れたいと思います．「記号つけプリント」や『魔法の英語』は，単語の意味が横に書いてあるので，単語の力はついていない，という感想を持っている生徒が若干います．でも，僕は，その生徒のとらえ方は違うんじゃないかな？と思っています．語彙を増やすために，単語帳を持たせて範囲を決めて小テストで定着させる実践がオーソドックスで，たくさんの学校で採用されていると思います．ただ，そのやり方でいくと，英単語の意味を単語帳に書いている意味でしかとれなくなってあまり役に立たない気がします．今回の作文の中で，ある生徒が，「英単語の意味は場所や状況によっていろいろな意味になることに気づいた」と書いていました．記号つけプリントのヒントに書いてある単語の意味はあくまで，「その単語の核の意味」であって，その単語の本当の意味を理解するのは，文脈に任されます．そうやって同じ単語がいろんな文脈で使われているのに出会っていく中で，その英単語のイメージが「核の意味」の周りを重厚にコーティングしていくのではないのでしょうか？母語と外国語は１対１対応になっていないことに気づくことは，外国語教育の神髄であり，面白さであり，「母語を耕す」絶好の機会です．語彙を増やすにはいろいろなアプローチがあるとは思いますが，「このやり方では，単語力はついていない」と思っている生徒には，「そうじゃない」ということを伝えていくべきだと改めて思いました．

それはさておき，全国教研の発表の際，参加者の方が価値付けしてくださったのは，「この授業で英語と日本語の違いがわかった」というコメントでした．私が発表した分科会は，英語の教科化が目前にせまっている小学校の先生がたくさんいらっしゃいました．測定可能な 4 技能の習得ばかりが強調される昨今の英語教育の流れの中で，小学校でどんな英語の授業をすればいいのか切実な悩みを持たれている先生方が，「日本語と英語の違い」に気づき，「ことばとは何か」を考えさせる大切さに気づいたという趣旨の発言をしてくださいました．おかげで，「英語と日本語の違いに気づかせ，普段何気なく使っている日本語にもルールやさまざまな表現方法がある」ことを気づかせることを目指している，僕の授業の方向性に自信が持てました．

さらに，「外国人とフレンドリーに話す力」というのに対しても，小学校の先生は熱く反応されました．これは，必修タスクの一つである FLT の先生とのフリートークで身についた力だと思われます．「コミュニケーションの土台は，測定可能な 4 技能だけではなく，伝え合おうとする意思，積極的に関わり合おうとする意欲，根気よく伝えようとする努力だ」（『英語教育幻想』久保田竜子，2018）を思い起こさせる本質的な議論ができました．

「しようと思った．今までは英語をあきらめていた」というのも嬉しい意見でした．「なぜ日本人なのに英語の勉強しないといけないの？」「英語なんてわからない．面白くない」「授業って，黒板に書いたことノートに写して覚えるだけやろ！」．中学校での高校受験対策に特化した英語の授業で，苦手意識と英語や授業や勉強に対する嫌悪感をもつ生徒たち．彼らの目の前に，歌の暗記，暗唱，書写，和訳マラソン，他言語の学習など，「難しそうやけどできそう」「やってみたい」と思えるような「ひも」をいくつも垂らしておく工夫は大事だなと改めて思いました．

生徒の振り返り作文や，アンケート調査から，自分の実践の成果や課題があきらかにな

りました．次章では，さらに，『魔法の英語』実践の振り返りを深めていきたいと思います．

4 生徒の声を受けて実践の振り返り

「必修タスクだから仕方なく・・」という気持ちでやっているうちに，ストーリーの楽しさや英語の構造が少しずつ分かるのが嬉しくなって，点数など関係なく取り組み，友達ともいい意味で競争しながらゴールして大いなる達成感を得る」というサクセスストーリーを描いていました．たしかにそんな「魔法」にかかった生徒も居ましたが，思った以上に少数でした．なぜ，今回いまひとつうまくいかなかったのか，その原因を考察していきたいと思います．

4.1　『魔法の英語』をどう与えるのが効果的か？

今回の与え方でいくと，「いつでもできる」という安心感があって，授業中あまり学習しようとしない生徒が多かったと思います．『魔法の英語』タスクだけでは，なかなか授業中に学習する意欲が出てこなかったようです．FLT とのトークやボーナス課題なども与えて，意欲の向上を図ったのですが，限界がありました．かといって山田先生のように完全に補助教材として授業で扱わないのは，ほとんど家庭学習の習慣のない工業高校の生徒にはハードルが高いと思います．ですので，2 学期以降『魔法の英語』を使用するクラスでは，音声教材である歌のリズム読み，暗唱テスト，和訳マラソンなどと並行した形で行っています．果たして，うまくいくかは分かりませんが，どうなったかはまた実践終了後に考察していきたいと思います．その鍵は，「教員とクラスメートがいて，共通の時間と場所を共有している授業の場でしかできないこととは何なのか？」を問い直す事にあると思います．

4.2　テキスト自体の使い方について～解答，「記号なし英文」，文法解説コーナーの使い方，「立ち止まり訳」と「穴埋め語順訳」～

先述のとおり，あるクラスで間違って解答を綴じたまま配布してしまいました．今の生徒達はスマートフォンの写メ機能と「ライン」がありますので，解答が 1 枚あれば，それは瞬時に全員に行き渡ってしまいます．それはクラスを超えてでも．もちろん解答を写したり，人の答えを写したりすることを否定するわけではありません．しかし，初めは答えや友達に頼っていたけれど，やっていくうちに自力で解いて，英語の構造パターンを身につけるという「好循環」にもっていくことを，この解答先渡しが妨げたのかもと思います．ただ，先ほどの生徒の意見にあるように，ある程度生徒が進むページ数が増えてきた時を見計らって解答を配るのは意味があることのようにも思っています．

それと，もう一つ考えるべき点は，巻頭にある「テキストの記号なしの英文」の使い方と 21 ページなどにある「文法解説コーナー」の使い方です．今回は全く意識していなかったですが，「テキストの記号なし英文」については，記号をつけさせる練習に使えることが，メーリングリストの投稿を読んでわかりました．「文法解説コーナー」については，生徒が質問に来たときに「ここに書いているよ，読んでみて！」と示すのが一番効果的だったかと思います．そのためには，生徒に「疑問を創らせる力」をつけさせないといけな

いのは，いうまでもないことですが・・・．とにかく，今回の『魔法の英語』実践では，いろいろな面で準備不足だったなと反省します．

それと，これまでの授業で，記号つけプリントになれてきた生徒にとっては，穴埋め語順訳を飛ばしていきなり立ち止まり訳をやってもいいことにしました．その判断は間違ってないかと思います．

4.3 『魔法の英語』実践の学期の定期テストをどうする？

以下は，今回の魔法の英語関係の出題です．

4　英文を読んで以下の問に答えなさい。(20)

Little Prince:(1) What do you sell?

Merchant: (2) I sell pills.

Little Prince: (3) What kind of pills?

Merchant: (4) Swallow one pill, and you will not be thirsty for a week.

Little Prince: (5) Why are you selling them?

Merchant: (6) Because they save a lot of time. (7) With these pills, you can save fifty-three minutes every week.

Little Prince: (8) And what do I do with those fifty-three minutes?

Merchant: (9)Anything you like…

Little Prince:(10) Oh! If I have fifty-three minutes, I will [あ　　] to drink fresh water.

ヒント　little prince 星の王子様　merchant 商人　what 何？　sell 売る　pill(s)薬　what kind of ～ どんな～？　swallow 飲み込む　will ～だろう　thirsty のどが渇いている　for ～の間　a week 1週　with ～とともに、～を使って　these これらの　can～できる　every week 毎週　anything なんでも minute(s)分　save 節約する

問1　(5)の them がさしているものを本文から1語で抜き出しなさい。[　　] (2)

問2　(8)の文から前置詞のまとまりを見つけて [　　] で囲みなさい。(2)

問3　以下の質問に対する答えを日本語で書きなさい。How many minutes can the pills save? (2)

毎週53分まで節約できます。

問4　本文から助動詞を二つ見つけて書き出しなさい。(4)

save	anything

問5 (4)の英文の語順訳になるように空欄をうめなさい。また、全文の意味を日本語で書きなさい。(8)

(Swallow) one pill, and you (will not be) thirsty [for a week].

(飲む) 1錠の薬, そして あなた (だろう ない ある) のどが渇いている [～の間 1週].

意味　1錠の薬を飲むと1週間のどが渇いているだろう。

問6　あなたなら空欄あ　にどんな言葉をいれますか？3語以上の英語で答えなさい。(2)

裏面に続く

今回は必修タスクの範囲であった，20 ページまでの英文で，しかも単語の意味はほとんど与えた上で出題をしました．『魔法の英語』を実践に使った後の定期テストでどんな問題を出すかは以下の 3 通りあると思います．

あ　テキストと同じ英文を使って単語の意味も与えた問題

い　テキストと同じ英文を使っているが，単語の意味は与えない問題
う　テキストにはない初見の英文に単語の意味を与えた問題

どの問題がいいかは，その学習集団によって変わってくると思うし，これらを組み合わせて出題する方法もあると思います．なんのために『魔法の英語』を教材に使うかを考えれば，ぼくは「う」が理想かと思います．ただ，この件に関しては,僕の中でまだ，はっきりとした方向性はもてていません．ただ，問 5 のような，ひとつひとつの単語の意味は分かっているが，それをテキストの文脈やセンマルセンや接続詞など英語の統語規則にあてはめて「立ち止まり訳」できる力は，クラスにもよりますが，まだまだ生徒の力になっていないことがわかり，愕然としています．そう考えれば，まだまだ（う）タイプの出題は，時期尚早かなとは思いました．

4.4　クラス間の意欲と学力の差について

今回は，20 ページまでを必修タスクとし，それ以降は 1 ページ進むごとに点数をあたえるというボーナス扱いにしました．さらに，いわゆる「発展問題」については，すべてのページが終わった後に挑戦させ，完成させた生徒にはさらに「完走ボーナス点」を与えました．指摘される前に先に言いますが，20 ページというのはあまりにも少なすぎました．ハードルが低すぎて，ずっと授業中は遊んで，ある 1 回の授業でいきなり集中して 1 日で必修タスクを終わらせる強者も数名いました．もう少し生徒を信頼して高いハードルにすべきでした．以下は，各クラスで生徒の『魔法の英語』到達の最終結果です．

	在籍数	必修タスク突破	必修タスクのみ突破	一つ以上ボーナスにチャレンジ	完走者
土木科	38	37	26	6	5
創造技術科	40	40	10	16	14
化学技術科	39	39	15	14	10

今回は，これまでのように提出しない生徒を何回も呼び出して，補習するというケアはしませんでした．そうではあったのに，必修タスクをしなかった生徒は土木科の 1 名のみでした．それはこれまでのように，いくつものタスクを課すのではなく，タスクを絞ったことと，プリントではなく，ワークブックなので，授業時間以外でも出来た点が要因としてあると思います．さらに，毎回授業の初めに，全員がどこまで進んだかの進行表を配布したことも，「今，オレトップや！」とか「あいつには負けられん！」といういい意味の競争心が出て，パフォーマンスの向上につながりました．もう一つ，忘れてはいけない要因として，「3 年生の 1 学期の成績は，進路実現に向けてとっても大事」という思いが生徒と 3 年生の担任の中にあることがあります．（その“呪い”の解けた 3 年生の 2 学期以

降の授業が，毎年悩みの種です・・・）．

改めて表を見てみると，クラスによる差がもろに出た結果になっています．平均的な学力の高さで並べると，創造技術科→化学技術科→土木科の順ですが，タスクに取り組もうとする意欲の差がそのまま現れています．理想を言えば，英語や勉強に苦手意識を持つ生徒が多い土木科の生徒達にも『魔法の英語』の学習をとおして，英語の構造を自分で発見し，学習の楽しさや意欲の向上を促すことが出来たらよかったのですが，残念ながら，そういう結果にはなりませんでした．

この 3 クラスは同一教材，同一の成績の付け方でやってきたのですが，学力差を考慮して，例えば，必修タスクのボリュームをクラス間で差をつけたり，定期テストの点数と平常点の点数の割合に差をつけたり，定期テストそのものの難易度を変えたりするべきだったのかなと今更ながら後悔しています．もうあと少ししか授業時間がないので，どこまで出来るか分かりませんが，特に土木科の生徒達の学習意欲の向上を最後まであきらめずに追求していきたいです． 土木科の生徒達とは 1 年生からの持ち上がりで，生徒との人間関係は良好で，かわいい生徒達なのですが，社会に出る前に何か一つでも英語の授業で彼らにはっきりとした「手土産」を渡せるように苦心してきたいです．

4.5 評点方法と同僚性の問題

最低限全員がしないといけないラインを設定し，そこまでは，教員が責任をもって生徒にやらせる．それから先の生徒の取り組みは，ボーナスポイントとして評価するという評点方法は，生徒の動機付けという意味で，とても効果的なやり方だと最近実感しています．

「最低限全員がしないといけないライン」について少し考えてみます．今，文科省や国がやろうとしている「学テ体制」や「学びの基礎診断」や「高校 3 年生で英検準 2 級の英語力を」などという「スタンダード主義」と，1980 年頃に京都を中心に広がっていった「到達度評価」は，同じ「目標が学習者の外から与えられた目標準拠評価」ですが，大きな違いがあります．前者において，「目標設定者」（文科省や県教委など）の役割は，目標を与え，競争させ，結果の順位を公表するだけです．目標に到達できたかどうかは，学校や教員や生徒の「自己責任」です．後者では，「目標設定者」（授業を担当する教員）の役割は，すべての生徒を，責任を持って目標に到達させることで初めて完結します．前者は，学力は「個々の努力により向上させるもの」ととらえ，後者は，学力は「保障するもの」ととらえています．僕は，後者の立場です．こちらが設定した「必修タスク」であるなら，全員が突破するまで責任をもつべきです．（もちろん，先頭と最後尾を引っ張るために，ときには，「切る勇気」を持つことも必要ですが）．

次に，ボーナスポイントについて考えていきます．ボーナスポイントを設定する最終目的は，「点数とか成績とか進路とか関係なく，ただただ自分がやりたいから学ぶ」ところまで生徒をつれていくことです．でも，人間というのは，自分がやったことを誰かが見てくれる，誰かが価値づけてくれるということが大きな動機付けになるのは間違いのないことです．ですので，ボーナスタスクを加点するのは，ただ単に，生徒に点数をバーゲンセールしていることにはなっていないと思います．（ただし，ボーナスタスクのメニューをどうするかは，もう少し考える余地はあるかとは思います．できるだけ「本業の必修タスク」とリンクしたものにすべきなのでしょうが，「名曲さび暗記」や「他言語学習」は，

必修タスクとあまり関連がないので，どうかな？とは思っています．でも，生徒たちは「名曲さび暗記」が，大好きで，非常に積極的に取り組むので，授業参加を促す意味ではいいかなとも思っています）．

先日の和歌山県の高英研の研修では，新潟の現役の英語教員の方を講師に，評価論を中心に学習しました．各校がどのように成績をつけているかのグループ討議がとても盛り上がりました．昨今のコミュニケーション重視の英語教育では，スピーキングテストや自由英作文やインタビューテストといういわゆるパフォーマンス課題を導入することが求められています．しかし，パフォーマンス課題の評価は，評価者による差が大きい，評価規準（いわゆるルーブリック）を考えないといけない，またそれらのパフォーマンス課題の点数と定期テストの点数をどんな割合にするかも難しいという話になりました．

僕はその議論を聞きながら，寺島先生がよくおっしゃる「質を量で評価することは絶望しか与えない．実技テストは，○か×かで評価する，しかも合格するまで何回でもチャレンジできる形が一番効果的だ」「点数は小切れにして，ちまちま与えても生徒の意欲はあがらない」という考え方をずっと考えていました．教員というのはどうしても「正確に客観的に成績をつけないと不平等だ」という固定観念にがんじがらめになっているようです．

評点をつける目的が，「この生徒はこのくらいの能力を持っていますという外向けに信頼性のある値札をつけること」だけにフォーカスが当てられすぎなのではないでしょうか？もちろん，そのような面があることを否定はできませんが，「評点は生徒の学習を励ますためにある」というもう一つの面にもっと焦点をあてるべきだと思います．講師の新潟の先生も「パフォーマンステストは，生徒が間違いを恐れず，積極的にアウトプット活動にとりくむ気持ちを励ますつもりで，細かい出来は気にせず，おおまかに出来ていたらOK でいい．点数も 100 点中 20 点くらいどーんと保障してあげた方が効果的ですよ」と強調されていました．

話を僕の実践に戻すと，パフォーマンス課題は，「魔法の英語を 20 ページまでやりきる」「歌の暗記」「リズム読みテスト」「FLT とのトーク」，すべて「○か×」で，しかも何回でも挑戦出来るスタイルです．断言します．生徒はその方が，やる気は俄然上がります．そして，合格したときの「達成感」は，次の学習に向かう大きな原動力になります．（気をつけるべきなのは，そのパフォーマンス課題が，すぐに出来るものではだめで，がんばったらなんとか到達できるちょうどいいレベルになっているかということです．そして，難しすぎてもいけない．設定レベルが高すぎると思われる生徒には，特別ルールを作るなどの工夫も不可欠です）．さらに，パフォーマンス課題を突破すると，赤点回避の 30 点を保障し，ボーナスポイントも，かなりの大判振る舞いで与えています．この評点方式は，「外向けに生徒の能力を信頼のおける規準で証明する」ということからはかけ離れているかもしれませんが，それが生徒の学習の動機づけにつながるのであれば，長い目で見たら，「安い投資」なのではないでしょうか？パフォーマンス課題突破点を大きく保障し，ボーナス課題を加点するというのは，生徒の「学びに向かう力（新指導要領）」という見えないものを「量」で数値化するという意味もあるから，先進的な評点方法だというのは，ちょっと言い過ぎかな？

ただ，評点問題でつきまとうのは，同僚性の問題です．実は，この評点方法にしたせいで，あるクラスの平均点がとても高くなってしまい，同学年で別の先生が担当しているク

ラスとの差が大きくなり，教科会議で問題になりました．その中で，工業高校の横並びのプレッシャーのなさに甘えて，評価方法にしても授業実践にしても，横の先生を気にせずにしすぎていたこと，独りよがりの実践に終わっていること，自分が担当しているクラスの生徒だけを変えることに果たして意味があるのか？という疑念や葛藤を強く感じました．宮城の佐々木先生のように，寺島メソッドの素晴らしさを，同僚の先生方や他校の先生方に広めていくことが，なかなか私は出来ていないのが残念です．いずれにせよ評点方法と同僚性の問題は，これから先避けて通れない解決すべき大きな問題です．

4.6　個別学習スタイルの授業で生徒の「相互作用」をどう引き起こすか？

先日，長野市で行われた全教の全国教研で，今僕が工業高校で実践している寺島メソッドを駆使した個別学習を重視する授業スタイルについて発表してきました．そのときある小学校の先生が，こんなアドバイスをくれました．

「生徒の振り返り作文で，生徒たちの学びがよく分かりました．でも，一人一人の生徒の気づきや発見を他の生徒に伝えることをすれば，クラス内で助け合いや相互作用が起こって，もっとよい学習集団になるのではないでしょうか？」

僕は，雷を打たれた気分になりました．確かに，僕は，日々の学習振り返りシートや，個別の生徒とのやりとり，「学習振り返り作文」によって，個々の生徒の思いや気づきや到達点を把握しています．しかし，その情報を共有したりなげかけたりする事で生徒間の相互作用を促すことは，意識はしてきたのですが，具体的に何も出来ないままになっていました．『魔法の英語』の学習をとおして，一人一人の生徒が気づいた「英語ってセンマルセンなんや！」とか「日本語と英語って一対一対応じゃないんや！」みたいな「光る言葉」をその生徒と僕のものだけにしないで，全体に返していく作業を，次学期からは意識的に取り組んでいきたいと思っています．

4.7　寺島メソッドの神髄はスパイラルにあり

山田先生の生徒の感想を読んで，あることに気づきました．それは，補助教材である『魔法の英語』の学習と，正規の学習である「英作文タスク」や基本 3 教材の学習が，生徒さんの中で完全にリンクしていることです．つまり，「寺島メソッドの神髄はスパイラルにある，つまり一つのタスクが一つの目標で完結せずに，複合的に絡み合って，それが「幹の習得」に結びつけられているんだ」という点に気づくことができました．例えば，The House の「書写」「リズム読み」「和訳プリント」「暗唱」「暗写」はそれぞれ別々の活動なのですが，実は一つ一つの活動がしっかり絡み合っています．「リズムの等時性」と「語順」という英語の本質を，多方面から見つめ直し，幾重にも幾重にもコーティングして「気づき」を「確信」に昇華させている行為と言っていいと思います．そういう意味でも，『魔法の英語』のみを必修タスクにする授業デザインは，「もったいない」ということが分かりました．

議論が飛躍しているかもしれませんが，この「本質を多方面から見つめ直し，幾重にもコーティングして本質を確信していく行為」というのは，すべての学問において当てはまると思うのです．以下は僕が大学院にいたときに，あるレポートで提出した文章の一部です．

「真理などというものは、生まれたときから私たちは答えを持っているのであって、日々の学習はそれを積み重ねて確認しているだけのような気が最近しています。積み重ねは多層でありすぎてありすぎることはないのです。積み重なれば積み重なるほど頑丈に自分を守ってくれます。ある限られた社会や世界でのみ通用する力（英語運用能力や金属加工技術など）は、身についたかどうかは簡単に可視できますが、ひとたび自分が置かれた環境が変わるとまったく役に立たない脆弱なものです。そんな力は社会に出てからでも十分つけるチャンスがあります。それよりも、自分や人を信頼する力や、学問の楽しさ、学問の深め方、自分を上手につたえる母語による自己表現力、他人の考えを尊重する力など、見えにくいけれど、もっと普遍的で根本的な力を学校教育では身に着けるべきではないかと今は思っています。」

外国語でも数学でも理科でも社会でもすべての学問は，「自分と他はどう関わればいいのか」「自分とは何か，他とは何か」「豊かにいきるとはどういうことか」という 3 つのテーマの周りをぐるぐるまわって，答えを確認している行為の様な気がして仕方がありません．そのテーマは，寺島メソッドの考え方でいう「幹」と言い換えられると思います．「幹と枝葉を区別し，幹を大事にする学習」は，どの学習のどの場面においても，大切にされるべき事ということを，今考えています．そのつながりの中で，どんな教材をどんな順番で用意するか，学習集団をどう組織していくか（『英語にとって授業とは何か』p. 15）が教員の仕事であるのであろうと，今は思っています．

5 最後に

簡単にまとめようとしたら，どんどん筆が進んで，話もあちこちにいってまとまりのない文章になってしまいました．しかし，書き進めていく中で，「スパイラルの大切さ」「幹と枝葉をしっかり区別する大切さ」「高校における外国語教育としての英語教育の意義」「生徒の意欲を向上させる評点方法」など，多くの大事なことを改めて自分の中で整理し直すことができて，よかったです．今回，初めて『魔法の英語』を授業の場に導入しました．ここまで見てきたように，まだまだ改良の余地はあります．『魔法の英語』を「いつ，どのように」導入するかは，生徒の様子や，こちらの「教員としての力量」，それまでどんな授業をしてきたかなどによって一概には言えませんが，2 学期以降，第 1 グループ，第 3 グループでの『魔法の英語』を使った授業実践がうまくいくように，この文章で考察したことを生かしていきたいと思います．